「水なく衛生状態が悪い」

フィリピン泥流被害 AMDA帰国会見

フィリピンの泥流被害の状況を報告する館野さん（左）と渡辺さん

フィリピン・ルソン島南部アルバイ州の泥流被害で、被災者支援に派遣されていた国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市楢津）の調整員館野和之さん（四四）＝岡山市、看護師渡辺美英さん（四七）＝長野市＝が二十五日、岡山市内で帰国会見し、被災地の状況を報告した。

アルバイ州は十一月末から十二月にかけ、台風による大雨で泥流が流れ込み、死者、行方不明者は計約千五百人、家屋倒壊は二十万戸超ともされる。館野さんらは二日以降現地入りし、医師、看護師ら、現地や海外のAMDA関係者約四十人と診療や支援に当たった。

館野さんは呼吸器系の感染症が目立ったと報告。「水がなくて衛生状態が悪い。電気と情報も遮断されたため、初めは手を差し伸べる団体が少なかった」と述べた。

渡辺さんは「住民は財産、家族などを奪われたストレスで、ささいなことでいざこざになった」と話した。

AMDAは、現地の状況調査を続け、今後の支援を検討する。

（鈴木義治）